
歴史の一部

ユララ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歴史の一部

【Nコード】

N3135E

【作者名】

ユララ

【あらすじ】

現代に繋がる物語。これはそのきつけ

まず最初にこの物語に主人公はいない。これは物語というには不完全なためである。よって、一つの歴史として読み出して欲しい。

といっても、このまま読み進めるにはある程度の知識が欲しい。その知識とは『タロット』である。

タロットとは全部で78枚からなるカードのことである。78枚のうちの22枚を構成するものを大アルカナといい、残りの56枚で構成されたものを小アルカナという。今回は二つのうちの大アルカナに注目したいと思う。

22枚のカードにはもちろんそれぞれに違う意味がある。しかし、その解釈は未だに定まっていないところも多い。また、占いでは正位置と逆位置により意味も違ってくる。

タロットは奥が深い。書き綴ろうとしてみると、どんどん長くなるのでここでは最低限必要な知識だけ書いておく。私的にもっと詳しく知りたい人は自分で調べてみてくれ。

16世紀前半。魔女狩りが盛んに行われている最中。ある一人の魔術師が呟いた。

「血の雨が見える・・・」

魔術師は自分の家の窓から外を見ている。外は豪雨が降り続いていた。本来ならば無色透明の雨が、優れた魔術師には鉄の匂いにまみれた血に見えた。

理由は分かっている。魔女狩りである。無実でありながら処刑されていった人々が、訴えかけているように感じてならなかった。

「なんとかしなければ」

そうは言うものの魔術師に残された時間は少なかった。魔術師には聡いがために自分の命が僅かだということに気がついていた。

「・・・どうしたものか」

さんざん悩んだ魔術師が出した答えは、自分のあとを継ぐ者を探すことだった。しかし、魔女狩りが行われている最中さなかそのような奇特な者を探すのは無理な話だった。それに万が一に見つかったとしても、自分が知っている魔術を全て教えている時間がない。

そこで出した答えは自分の魔術を形にして残すことだった。しかも、悪用されないようにしなければならない。

魔術師は自分の知識を分割することにした。その際に用いたものがタロットの大アルカナである。

結果として、タロットは魔術師の志を受け継ぐ者の手に渡り魔女狩りは終わった。そして、それと同時にタロットの行方もわからなくなった。

そして、時は現代まで過ぎ、タロットが再び目を覚ますことになる……

（後書き）

はい、駄文でした。ごめんなさい。でも、いつかもっと素敵な文を書けるようになれば続編を絶対に書きます。

書くとしても『智の地』が完結してからだと思います。．．．
いつの話になるんだろう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3135e/>

歴史の一部

2010年12月29日21時57分発行